

小学生が求める心の居場所づくりに関する事例検討

—不登校予防の観点から学校生活空間の記述調査に着目して—

八 木 利 津 子

1. 研究の背景

近年、仲間関係における問題などから心身を病み自殺する若年層の報道が絶えない。教育現場では、学校という生活空間の中で学習活動や集団生活を通して、社会性や協調性などの育成に取り組んでいる。平成28年度には、中央教育審議会答申により新学習指導要領に「主体的・対話的な深い学びのプロセス」が重要視され、告示された。それらを踏まえて、昨今の教育現場では、主体性や対話性が強調されるアクティブ・ラーニングが積極的に取り入れられ、人前で発表したり、仲間同士で話し合いをしたりする場面が多い現状である。意見交流場面が増える一方で、対人関係が苦手な児童は、集団生活において自信の無さがみられる場合もある。対人交流場面では、不安感が増す児童の姿もみられる。さらに、不安感等を事由に不登校傾向を表す児童もいる。

このような学校空間において、児童が活動する学校で保健室空間のあり方は、近年多機能になりつつある。今日の教育現場では教室や大集団に近づきにくい状態の児童が、保健室なら登校可能であり、保健室空間なら長時間過ごすことができる状態、いわゆる「保健室登校児」を有する学校は多い。そこで、保健室登校を経験した児童が複数在籍する小学校において児童がもつ保健室観はどのようなものか、保健室空間のあり方を調査し、学校空間の中で、保健室以外の心の居場所が存在するのかどうかについて検討したいと考えた。

本研究では、仲間関係や友人関係の問題から集団不適応などのリスク解決を目指して、不登校予防の観点から小学生が求める心の居場所確保のために、学校空間に関する意識調査を行い、小学生の保健室観を明らかにする。不登校経験児による保健室観を踏まえて、新たな視点から子どもの生活環境を整えるために、小学生が主体的に求めている心の居場所となり得る学校生活空間について探求する。

2. 研究の目的

保健室登校児を有する小学校において児童の保健室観の調査結果を踏まえて、児童にとっての居場所とはどのような場（学校生活空間）が想定できるのか、児童の考えや現況を探るとともに、教育活動を行う上で、児童が主体的に望む「ほっとできる居場所」について検討する。

3. 研究の方法

調査時期：2015年10月～12月

調査対象：保健室登校児が在籍するA小学校児童610名（回答率①100%②66.7%③61.8%）

（各学年から100名、育成学級在籍10名含む男子305名、女子305名）を抽出

（保健室登校経験児童11名の内訳（1年2名・2年1名・4年3名・5年2名・6年3名）

調査内容：①保健室登校経験児童を含む保健室観について予備調査を実施。

②校内の居心地の良い場所について自記式質問紙調査を実施（自由記述）。

③校内の居心地の良くない場所について自記式質問紙調査実施（自由記述）。

質問項目：①「保健室に入って感じること」「保健室の中でお気に入りのもの」他。

②「ほっとできる場所と理由」、③「ほっとできない場所と理由」他。

質問紙の回答については、空欄も可ということをも明記しA小学校において始業前の朝の時間に記入し、調査対象校の担任教諭及び養護教諭に回収を依頼した。

4. 調査結果①

児童の保健室観について

予備調査から保健室利用状況による保健室観を把握し、学校全体の結果を図1と図2に表した。図1に示すように保健室は「きれいで明るい、静かな場所」「落ち着く場所」というイメージをもつ児童が突出した。図2の保健室にあるお気に入りのものについての回答では、身長計や体重計、体温計等自他の健康状態を知る計測道具より、心身を休める道具を記述する児童の割合が上回った。4割を超える児童が「緑ソファ」「クルクル回るイス」「本」と記し、癒しや休息につながるお気に入りがある生活空間として捉えられていた。

保健室登校児童の予備調査の結果は表1にまとめた。表1の「保健室に入って感じること」

の記述からは、保健室登校を経験した児童 11 名全員が「ほっとする」と述べており、安心できる環境が提供されていることがわかった。保健室という生活空間は、児童の意見から「落ち着く場所」「安心する場所」という学校全体が示した保健室のイメージと類似した保健室観が示された。また、「休養ベッド」や「緑ソファ」など、教室にはない保健室の機能に即するものへの愛着がみられた。保健室登校児にとって、保健室のイメージは、静かで落ち着く、お気に入りのものがある重要な生活空間として概ね受け入れられていると考えられる。表 1 に述べたように保健室にあるお気に入りのモノについての回答は積極的な記述がみられ、保健室が生活空間として保健室登校経験児童に捉えられていた。

保健室という生活空間は、静かな環境の維持とさらに元気になるような空間づくりを整えていく必要性が示された。そして、教室には無い保健室にある独自のものに対して愛着を感じている児童が多いことから、学校における心の居場所としての役割についても明らかになった。児童にとって、保健室が安心できる生活空間の一つであるということは教育的要素として極めて肝要である。さらに学校空間で「ほっとできる」他の場所や別室登校の可能性と居場所づくりの拡充について追調査結果を次項に述べる。

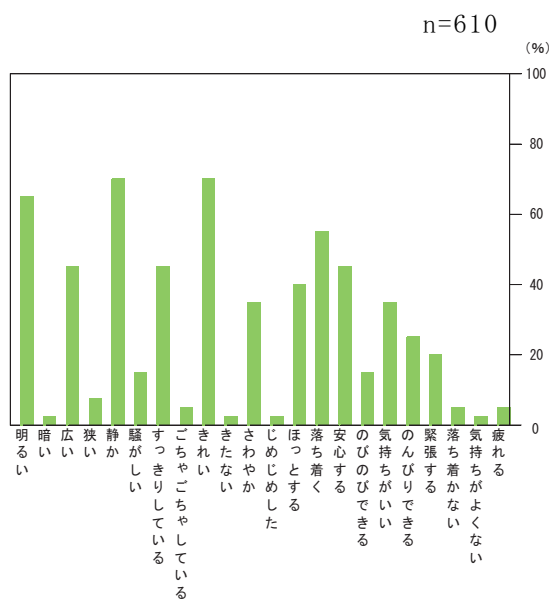


図 1 保健室に入って感じる事

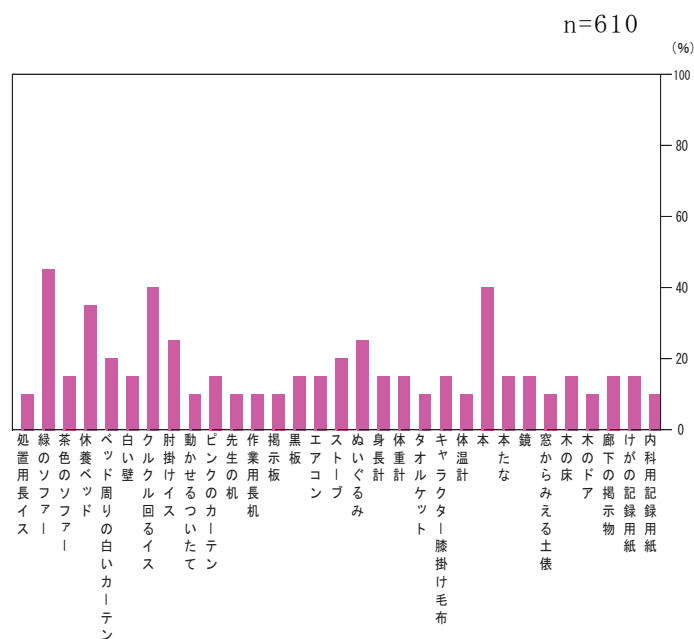


図 2 保健室のお気に入りのもの

表 1 保健室登校児童の保健室観に関する記述概要(11名)

学年	性別	保健室に入って感じること プラス	マイナス	お気に入りのもの	保健室についての 思い(自由記述)
6年	女2 男1	ほっとする おちつく 各2	ごちゃごちゃして いる 3 さわがしい 2 せまい・きたな い・おちつかな い・きもちがよく ない 各1	緑ソファ・休養ベッド 動かせる衝立 各3 ベッド周りの白いカーテ ン・肘掛けイス・ピンクカ ーテン・本棚・毛布 各2 作業用長机・黒板 各1	ごちゃごちゃしている 1 ほこりっぽくてしんど くなる 1 ゆかがきたない 1
5年	男2	ほっとする あかるい あんしん 各1	ごちゃごちゃして いる・さわがし い・つかれる 各2 おちつかない・ きもちがよくない 各1	緑ソファ・休養ベッド・肘 掛けイス・動かせる衝立・ 回るイス 各2 エアコン・ストーブ ぬいぐるみ・毛布 本棚・本 各1	もっとあそべるといい 1
4年	男2 女1	おちつく 3 きれい・ほっと する・あんしん 各2 きもちがいい 1	のんびりできない 1	肘掛けイス・本棚・動か せる衝立 各2 茶色のソファ・本 1	のびのび休めない 1 休みたいから静かにし てほしい 1
2年	女1	あんしんする おちつく ほっとする	なし	本棚 休養ベッド	回答なし
1年	男1 女1	しずか・すつき り・さわやか きれい・ほっと する・あかるい ひろい・あんし ん・のびのび きもちがよい 各2	つかれる 1	緑ソファ・休養ベッド・腰 掛けイス・しんどい時の記 録用紙 身長計・白いかべ くるくる回るイス 土俵・木の床・毛布 体温計・本・かがみ 各1	いつもおもしろい人が いるから元気になる 1 みんなが元気をくれる 1

5. 調査結果②③

ほっとできる場所とできない場所の調査結果から

保健室空間の他に校内においてほっとできる場所が有と回答した児童は、全体の77.6%で、無いと回答した児童は22.4%であった。過半数以上の児童は、学校空間にほっとできる空間があると感じていることが確認できる。中でも、育成学級と1年生を除く学年では、図書室が最もほっとできる場所と示された(表2)。その理由は、「ゆっくりできる、静か、集中できる、本がある」など児童が主体になって活動できる場所として選ばれた背景がうかがえる。次いで、全学年を通して、教室の記述が多くみられ、その理由として「友だちがいる、みんなと話せる」という学級集団ならではの回答が得られた。

その他、仲間と共に遊べる場所や会話ができる場所として、運動場や廊下が目立って多い。保健室は、多数意見の5つ目までに含まれていたが、「けがやしんどい時にみてもらえる、悩みを聴いてもらえる」など場所選びというより、保健室空間に常駐する養護教諭の存在がみえる記述であった。

また、表 3 に示すように、ほっとできない場所が有と回答した児童は 31.6%に上った。ほっとできる場所が無いと答えた児童の割合を 9.2%上回った。一方、ほっとできない場所が無いと回答した児童は、68.4%であり、ほっとできる場所が有の回答より 9.2%下回る結果となり、いずれも僅差ではあったが、割合を比較した値が一致していた。このことは、安心できる居場所を有する児童が、必ずしもほっとできない場所が無いとは限らないことやほっとできない場所を有する児童が必ずしも安心できる居場所が無いとは限らないことを表し、日々様々な刺激を受けて瞬発的な感覚で回答した児童の姿が想像できる。

あったらいい場所については、各学年共通して、図書室や教室に備えて欲しい物や「休憩」「音楽」「遊び」「こたつ」などの語句に代表されるようにリラックスができる、ストレス緩和に繋がる部屋や物に関するリクエストが多かった。「全ての校舎に保健室」や「気持ちいろいろ晴れ晴れ部屋」、「カーテンの模様」などユニークな意見もみられた。(表 4)

表2 ほっとできる場所の有無と主な理由 n=407

各学年100人抽出		ほっとできる場所の有無		ほっとできる場所 (上位5か所)		ほっとできる理由
	有効回答					
1年	63人 63%	有 50	無 13	教室	22	友だちがいる、みんなが静か いすにすわればほっとする ゆっくりにできる、しずか、本がある みんなとあそべる、ゆっくりにできる けがをなおしてくれる どんぐりや植物がある
				図書室	18	
		79.4%	20.6%	運動場	11	
				保健室	7	
				中庭	5	
2年	61人 61%	有 43	無 18	図書室	23	本がたくさんある ほっとする べんきょうしているときはみんな静か 音楽が好き あそべる、遊具がある
				保健室	10	
		70.5%	28.5%	教室	9	
				リミックスルーム	7	
				運動場	4	
3年	69人 69%	有 62	無 7	図書室	26	本がありリラックスできる すわれる、友とあそべる、みんながいる みんなとあそべる 楽しい、おちつく、学校をみわたせる、 すべり台がある いいにおい
				教室	25	
		89.9%	10.1%	運動場	14	
				遊具	13	
				保健室	4	
4年	73人 73%	有 51	無 22	図書室	23	静か、ゆっくりにできる、安心する 一人で本がよめる、休み時間静か、べんきょうできる しんどいとみてもらえる、やさしい、静か おちつく 色々な人と遊べる、サッカーができる 花がきれい、おだやか、涼しい
				教室	19	
		69.9%	30.1%	保健室	9	
				運動場	8	
				学年の畑 田んぼ	4	
5年	68人 68%	有 60	無 8	図書室	27	本が好き、静か、集中できる、フカフカのいす 慣れている景色、勉強、みんながいると安心 日光があたる、あたたかい、外をみられる 外風がきもちいい 遊ぶのが好きだから、たのしい いつもすわっているから、おちつく
				教室	21	
		88.2%	11.8%	カーテン、教室の窓の近く	9	
				運動場	8	
				自分の席	7	
6年	63人 63%	有 40	無 23	教室	14	いつもしゃべれる人がいる、友がいる 本がいっぱい、静かで落ち着く 悩みをきいてくれる先生がいる、ベッドがある 人目を気にせずくつろげる 風がくる、いろいろな人とはなしができる 気もちがおちつく 自由に遊べる、空気が新鮮、広い 一人で考える トランポリンが楽しい
				図書室	12	
		63.5%	36.5%	保健室	10	
				廊下、渡り廊下	5	
				運動場	4	
育成学級	10人 (100%)	有 10	無 0	プレイルーム	5	仲良しがいる、楽しい、勉強できる あそべる たのしい すきなことができる
				教室	4	
		100.0%		運動場	2	
				図書室、PC ルーム、給 食室	各 1	
合計	610人中 407人	有 316人	無 91人			
				66.7%	77.6%	22.4%

表3 ほっとできない場所の有無と主な理由 n=377

各学年100人抽出		ほっとできない場所の有無		ほっとできない場所 止位5か所)		ほっとできない理由
	有効回答					
1年	58人 (58%)	有 34 無 24 ----- 58.6% 41.4%	職員室	19	かぎをとりにいくのがいや よこの廊下を歩くとき うるさい、雨の日にあそべない、走ってあぶない 広い、人がいっぱいいる 友だちがいじわる、あばれる、やかましい べんきょうが難しい、雨の日走っている人が多い 入ったことがない	
			運動場	9		
			教室	7		
			校長室	6		
			太陽のみち	4		
2年	49人 (49%)	有 14 無 35 ----- 28.6% 71.4%	運動場	4	みんな走っているから なわとびするときあぶない 人が多い、みんながあそんであぶない	
			遊具	3	遊具がななめできけん	
			廊下	2	さわいでうるさい、走っている人がいる	
			教室	2	ごちゃごちゃ、男子がうるさい	
3年	64人 (64%)	有 11 無 53 ----- 17.2% 82.8%	職員室、給食室	1	なんとなく	
			渡り廊下、廊下	5	走っている人がいる	
			階段	3	前に足をさきみけがをした	
			トイレ	2	一人でさびしい、こわい すべり台がある	
			理科室、ニワトリ小屋、職員室	各1	もげいがいや、知らない人がいる	
4年	69人 (69%)	有 17 無 52 ----- 24.6% 75.4%	教室	5	男子が消しゴムおとす、休み時間がうるさい 友だちに悪口を言われる	
			トイレ	4	こわい	
			運動場、理科室、4年プレイルーム、くつ箱	各1	ボールをとられる、やけどをした 押し合いになる 昼休み後、くつ箱で	
5年	65人 (65%)	有 17 無 48 ----- 26.2% 73.8%	運動場	6	声がうるさい、広すぎる 自分のクラスの人とあそべない	
			第二理科室	3	実験のものが多く 先生が・・・	
			トイレ	2	くさいにおい	
			教室、プール、生物教室	各1		
6年	62人 (62%)	有 19 無 43 ----- 30.6% 69.4%	職員室	6	先生が多い	
			トイレ	3	便のにおい	
			廊下	2	ざわざわうるさい	
			図工室、教室、みんなが集まる場	各1	彫刻の目にみられている 小さい子が好きではない 教室はとてもうるさい	
育成学級	10人 (100%)	有 7 無 3 ----- 70.0% 30.0%	普通学級	2	いじわるされる	
			職員室	4	先生がいる	
			給食室	2	きれいなたべものがでる	
			教室	各1	べんきょうがいや	
合計	610人中	有 119人 無 258人 ----- 31.6% 68.4%				
	377人					
	61.8%					

表 4 あったらしい場所やもの

学年	記述内容	記述数	記述内容	記述数
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・こたつ (10) ・おもちゃがあるへや (5) ・教室にベット (4) ・教室におもちゃ (4) 		<ul style="list-style-type: none"> ・教室におふろ (3) ・ゲーム部屋 (2) ・一人部屋 (2) ・おかし部屋 (2) 	
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具の増加 (2) ・図書館の本をふやす (2) ・休けい室 (2) ・リトミックルームに音楽の本 (2) ・虫のひょうたん (1) 		<ul style="list-style-type: none"> ・こたつ (1) ・ゆっくり部屋 (1) ・きもちいろいろ晴ればれ部屋 (1) ・ゲーム部屋 (1) 	
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽室の楽器 (4) ・図書館をきれいに (4) ・教室に花 (3) ・和室を広く (2) ・全ての校舎に保健室 (2) 		<ul style="list-style-type: none"> ・カーテンのもよう (2) ・雨の日にあそび部屋 (2) ・全学年が利用できるイスと机 (1) ・書道室 (1) ・あそびルーレット (1) 	
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館にもっとイス、ソファ、クッションを置く (10) ・コンピュータ室を充実 (4) ・図書館に仲良くできる本 (4) ・トイレをきれいに (2) ・休けい室 (1) ・第二体育館 (1) ・植物部屋 (1) ・バイキングできる部屋 (1) 		<ul style="list-style-type: none"> ・防音部屋 (1) ・野球できる所 (1) ・絵描き部屋 (1) ・ぼうくうごうとか地下室 (1) ・雨天の運動場に屋根 (1) ・個室 (1) ・障子 (1) ・バランスボール (1) ・トイレに音姫 (1) 	
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・個室 (3) ・タブレット教室 (2) ・植物部屋 (2) ・怒られない自由に遊べる部屋 (2) ・図書室の本、イスをふやす (2) ・防音のかべ (1) 		<ul style="list-style-type: none"> ・教室にペット (1) ・映画ホール (1) ・静かな空間に本やお茶 (1) ・いいにおいのトイレ (1) ・マッサージ機 (1) ・くるくる回るすべり台 (1) 	
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・ソファ (15) ・ベッド (ハンモック) (8) ・図書室に本を増やす (3) ・好きな絵をかざる図工室 (2) ・タブレット (2) ・蛇口からジュース (2) 		<ul style="list-style-type: none"> ・他学年と交流できる部屋 (1) ・図書館にパソコン (1) ・図書室に木材家具 (1) ・温泉室 (1) ・シャワー室 (1) 	
育成学級	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン、アイパッド (9) ・ひみつきち (2) ・給食の材料 (1) 		<ul style="list-style-type: none"> ・テント (1) ・こたつ (1) 	

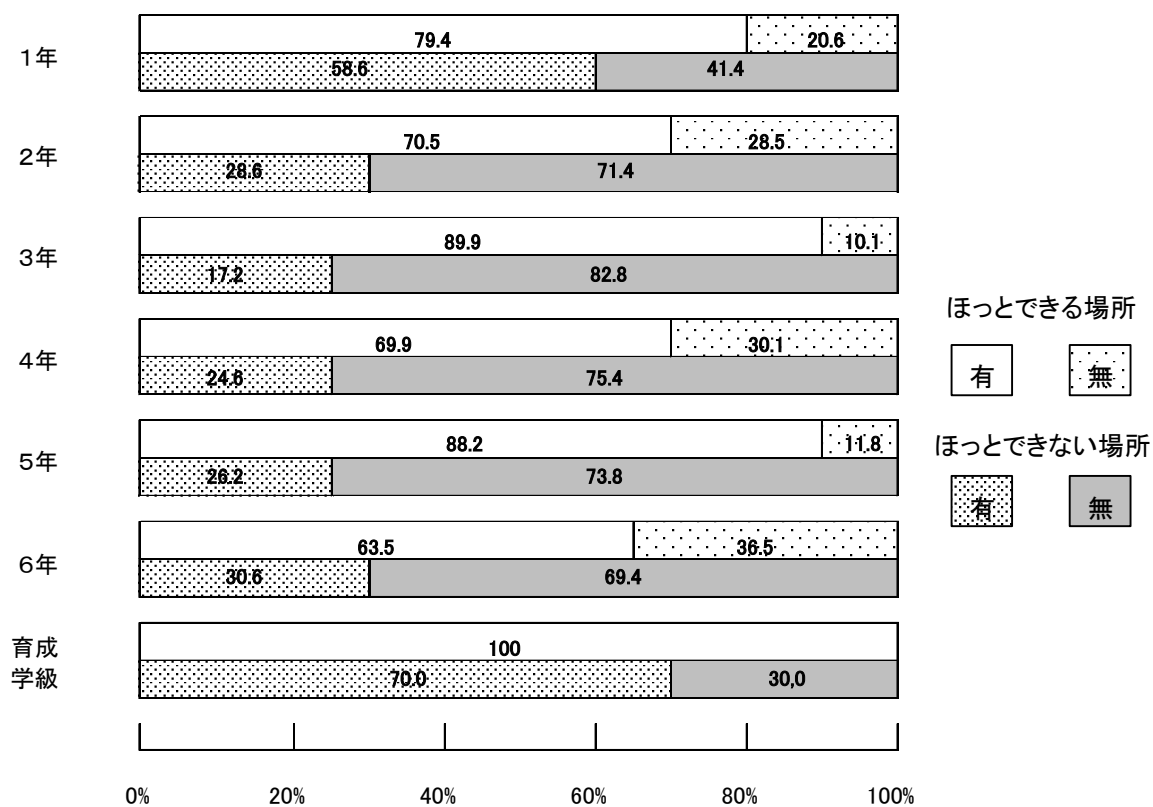


図3 ほっとできる場所とできない場所の学年別割合

表5 ほっとできる場所とほっとできない場所の有無と理由（保健室登校児童11名）

	ほっとできる場所（理由）	ほっとできない場所（理由）
1年男子	無し	遊具（いっぱい人がいるから）
1年女子	保健室（衝立が机とイスを隠してくれる）	教室（うるさい人がいるから）
2年女子	回答無し	回答無し
4年男子	保健室（ゆっくりできる） 図書室（静か）	回答無し
4年男子	無し	学校内（先生がいるから）
4年女子	保健室（いつもいるから）	回答無し
5年男子	保健室	学校全部（人がいっぱいいるから）
5年男子	無し	理科準備室（人体模型があるから）
6年男子	保健室と図書室（リラックスできるから）	回答無し
6年女子	保健室（理由回答無し）	教室（人がきらい）
6年女子	保健室（落ち着くから）	人が沢山いる場所（静かな所がないと安心できない）

6. 考察

学校生活空間の居場所づくりについて

図3に学年別割合をまとめてみると、ほっとできる場所の有無については、極端な学年差はみられなかったものの、ギャングエイジである4年生と最高学年である6年生は60%台にとどまっていた。これらの結果は、成長過程における精神作用や学校内での心理的な負担感などが潜んでいるのかもしれない。

ほっとできる場所として保健室が上位を占めると予想していたが、保健室を取り上げる意見が少なかった。5年生は、保健室登校によって長期間保健室で過ごす児童が同学年に複数いる状況であることから、教室で過ごしにくい人の居場所という認識が浸透した結果と考える。また、ほっとできる場所の理由には、「落ち着く、遊べる、楽しい」に形容される心理的な理由以外に、「音楽が好き、静か、きれい、慣れている景色、風が気持ちいい、あたたかい、いいにおい、光があたる、空気が新鮮で広い、ゆっくりできる、給食がおいしい」など嗅覚や聴覚、視覚、味覚、触覚などの児童の感覚的な捉え方が反映されていた。

ほっとできない場所を最も多く有した1年生は、新しい生活環境になり入学後半年を経ている時期ではあったが、まだ学校環境そのものに慣れていない実態の現れだと考える。

表5の保健室登校児童のほっとできる場所に関する記述に注目すれば、ほっとできる場所は保健室との記載が11名中7名にみられ、自分の居場所という認識がうかがえる。他の児童はほっとできる場所は3名が無いと回答し、1名が無回答であった。複数保健室登校児童を有する調査校の居場所づくりの課題がみえてくる。教室で過ごしにくい児童の居場所確保についての改善策を検討する視点からも、ほっとできない場所の有無と理由に着眼したい。ほっとできる場所が無いと回答した児童3名全員が、ほっとできない場所について具体的に示していた。そこには、遊具のある場所や、学校内や理科準備室と回答しており、人の集まる場所や苦手な学校空間の傾向が明らかになった。他の保健室登校児童の記載の共通点として、ほっとできない場所には、人が一定数集まる空間（遊具傍・理科準備室・教室）や同級生が滞在する場所を苦手としたことから、教室で過ごしにくい心境（状態）を自ら表明していると考えられ、集団間の対人関係に消極的な面が推察できる。

今後、教室など校内で過ごしにくい児童が、保健室ではない別室の居場所を探求する検討材料や指針として、児童は静かに集中できて、少数の仲間と主体的・対話的に交わったり、繋がったりできる生活空間とコミュニケーションの場を求めていることがわかった。本調査では、

児童が望む学校空間として図書室が最多意見であった。児童たちがほっとできる安全と安心をもたらす実現可能な居場所の一つとして図書室空間が挙げられたが、図書室は全校児童の共有空間であり、プライバシーの確保はなかなか困難であろう。

しかし、近年、図書館ボランティアの普及から地域ボランティアとの心の交流を通じて、児童理解や地域住民とのふれあいを深める場となり得るため、図書室の有効活用が可能と考えられる。児童が考える「あったらいい場所」の意見からみても、図書室に関連する要望が多数表明され、ゆったりした時間を過ごせる空間イメージとして象徴されている。

一方、ほっとできない場所の理由に注目すると、1年生は「運動場は走っていてあぶない、人がいっぱいいる」、2年生においては「運動場は人が多い、みんなが遊んであぶない」「遊具がななめであぶない」、3年生は「階段で足をけがしたから」、4年生では、「理科室でやけどをした」「靴箱で押し合いになる」、育成学級の児童は「教室ではいじわるされる、悪口を言われる」等の、危険行動に関わる理由記述や傷病発生の経験が起因となる回答が多くみられた。児童にとって、ほっとできない場所とは、危険な場所という認識があり、危険予測に繋がる思考と言えよう。

7. まとめ

学校における心の居場所づくり

本研究では、不登校になる前段階として教室に居場所を見つけにくい児童にとって、有効な学校の居場所づくりの検討を試みた。不登校予防の観点から、学校集団において仲間や人間関係から派生するリスクの解決を目指し、小学生の居場所確保のために保健室観について調査した。調査結果からは、不登校児を含む保健室観の違いから心の居場所づくりに必要とされることが、一例ではあるが明らかになった。保健室にあるモノに愛着を示す回答が多数みられるなど、子どもの生活環境を整える有用性に注目すれば、保健室が生活空間として多くの児童に意義をもたらし、居場所として捉えられていることが把握できた。

児童たちは、保健室にはある教室にないお気に入りのもの見出しており、保健室は心が落ち着く重要な生活空間として概ね受け入れられていた。一方、他の居場所づくりの検討については、追調査の結果を踏まえて多様な回答がみられ、保健室以外にも別室登校の可能性が示唆された。しかし、ほっとできる場所が無いと回答した児童が全体の約2割、ほっとできない場所があると回答した児童は、約3割みられたことに留意する必要がある。学校生活において、ほ

つとできない場所があると回答した心境を考えると、それらの空間は、児童に何か心の問題が生じた際に、クールダウンやセルフコントロールが容易にでき得る環境とは言い難く、本結果を参考に環境整備の工夫が図れるのではないだろうか。

今後、居場所づくりの工夫を図るための試行材料として、児童が求める傾向をまとめる。

児童の自由記述では、あったらいいものとして、こたつ、ソファ、クッション、ベット等が多くを占めており、心の癒しや温もりが直に体感できる物を求める傾向があった。具体的な場所としてあげられたのは、図書室が最多であり、集中できる空間やお気に入りの本が備わる空間がより好まれた。また、仲間が少数集う場所を求める記述があった反面、「個室、休憩室、怒られない自由に遊べる部屋、秘密基地、テント、温泉室、シャワー室」等の独りでゆったりできる空間についてもリクエストが述べられた。児童は、これらの仮想場所に、日常生活の忙しさから開放される空間というイメージを抱いているのかもしれない。あるいは、忙しい学校生活からほっと開放されたいという発想とも言えよう。

さらに、少数意見ではあったが、防空壕や地下室と回答した4年生がいた。このことから、近年の多発する自然災害を背景に、児童なりの対応場所や避難場所を求める声と考えられる。あったらいい場所として「おかし部屋」や「バイキングできる部屋」、「蛇口からジュース」という少数意見もみられ、小学生の発達段階から欲する食への関心もうかがうことができた

本調査から、心の居場所づくりには、児童のお気に入りが存在する物的に充実した場所と安全確保や快適な安心感をもたらすイメージ空間との統合が必要であると認識できた。現実には学校環境に相応しくない物も含まれているが、児童の仮想空間を刺激するような雰囲気づくりや好む物を題材にした資料提供で視覚化する等、心の居場所を検討することは可能である。

<参考文献>

- 1) 大久保智生・青柳肇, 『日本教育心理学会第42回総会発表論文集』, 161, 「心理的居場所に関する研究(2)一居場所感尺度作成の試み」, 2000
- 2) 奥地圭子, NHKブックス「不登校という生き方」, 2005
- 3) 鈴木智子・中野明德, 『福島大学教育実践研究紀要第39号』, 「学校空間と心の居場所」, 2000, pp. 55-62
- 4) 田口亜紗, 『成城大学文学研究紀要第29号』, 「学校保健室の系譜—その空間機能の変遷に関する予備的考察—」, 2006, pp. 1-20

- 5) 中野靖彦, 『愛知教育大学教育実践総合センター紀要』, 1, 「子どもの居場所を求めて」,
1998, pp. 185-191
- 6) 日本学校保健会, 『保健室利用状況に関する調査結果』, 平成 26 年度調査
- 7) 久野真澄・遠山彩香・小林央美・田中勝則, 『弘前大学教育学部紀要 第 107 号』, 「保健室
の利用状況と保健室観・養護教諭観の関連—小・中・高校時代の経験に基づいて—」,
2012, pp. 95-100
- 8) 宮下敏恵・石川もよ子, 『上越教育大学研究紀要 第 24 号』, 「小学校・中学校における心の
居場所に関する研究」, pp. 783-801

Study on the Making whereabouts for Elementary School Students
—Considering the description of the school living spaces from the viewpoint
of the truancy prevention—

YAGI Rituko

Who can assume any living space and place for children based on the findings of Health Office of elementary school pupils, exploring children's ideas and current status. Consider the place at the same time, the children would like to take.

Children reported that 77.6%, no child answered that there is a place in a school in the findings, at 22.4%. Confirmed and majority pupils have school living spaces can be relieved. Among them, most were requests related to "library" as a place where you can leave. The reason was, there can be slow, quiet, concentrate, book.

As a guideline for children difficult to spend in school classrooms in the future, too, to consider making students focused on the quiet, with few friends and found that seeking a living space or talk, you can hook.

Suggested integration of image space brings a safe and comfortable sense of security with the findings in place-making "in mind, children's favorite physical quality where you should be.